

藤田嗣治(レオナルド=フジタ) 洋画家。フランスで一躍寵児、帰国して創作も<敗戦>後、批判されて渡仏し帰化。

ふじたつぐじ

帝国大学始・1886 = 陸軍軍医藤田嗣章の末子・次男として東京に生まれる。

帝国憲法発布1889 = 3歳 :

日清戦争始・1894 = 8歳 :

日清戦争終・1895 = **9歳** :

中学校時代に暁星の夜間部でフランス語を学ぶ。

日露戦争始・1904 = **18歳** :

日露戦争終・1905 = 19歳 : **東京美術学校西洋画科に入学。同級生に、後年、漫画家となる岡本一平や近藤浩一路ら**がいた。

卒業後、和田英作の壁画制作の助手をつとめる一方、

韓国併合・・1910 = 24歳 : **文展にも出品、3年連続して落選する。**

明治天皇没・1912 = 26歳 : **当時藤島武二や有島生馬ら洋画家たちの渡仏や帰国が相次ぎ、ひそかに期するところ**があっ

大正政変・・1913 = **27歳** : **フランスへ赴く。**

パリで川島理一郎と共同生活をはじめた直後に第1次大戦が勃発。戦争前後のつらい時期にモディリアニ、ピカソ、ザッキンらを知る。

パリ和条約・1919 = 33歳 : **サロン・ドートヌヌに出品した6点すべてが入選。**

大暴落・・・1920 = 34歳 : **同展に後にキスリングのモデルとなるキキの裸婦像を出品。乳白色の絵肌に、面相筆による墨色で輪郭線**をとり、数多くの裸婦や猫、あるいは室内風景を描き、その細密描法によって一躍名をあげ、

原敬首相暗殺1921 = 35歳 : **同展審査員となった。**

水平社結成・1922 = **36歳** : **「自画像」「我が画室」、**

円本時代始・1926 = 40歳 : ***2人の裸婦を描いた「友情」がフランス政府の買上げとなり、またパリの大学都市、日本館のサロンを飾った大装飾画などの制作というように、この前後エコール・ド・パリの一人として脚光を浴びる。**

世界恐慌・・1929 = 43歳 : 一時期日本に戻ってから、

海軍軍縮条約1930 = 44歳 : **またパリに帰り、**

満州事変・・1931 = **45歳** :

その後、北米、中南米各地を旅行して制作。

国際連盟脱退1933 = 47歳 : **以降、日本に滞在。精力的に個展を開き、二科展にも毎年出品。**

日本滞在中で注目されるのは、大阪十合百貨店や京都日仏会館などの壁画制作である。

日中戦争始・1937 = 51歳 : **とりわけ「秋田年中行事太平山三吉神社祭礼の図」は、桃山・江戸初期の障壁画や風俗屏風の技法を取り入れた最大のものである。**

健保+総動員 1938 = 52歳 : **海軍省囑託として中国に派遣され、以後、仏印(フランス領インドシナ)やマレー半島などをまわって数多くの戦争画を描き、聖戦美術展、大東亜戦争従軍画展などに出品。戦争画は記録性を重視するところから、それまでの画風と異なる重厚なマチエールを駆使した迫真的な描写の作品となっている。**

第二次大戦始1939 = 53歳 : **翌年までパリ滞在。「猫」を描く**

大政翼賛会・1940 = **54歳** :

日米開戦・・1941 = 55歳 :

創作学会検挙1943 = 57歳 : **「シンガポール最後の日」その他の仕事で朝日文化賞を受賞。藤田の卓抜な描写力で記録した戦争画は70年にアメリカから77作家155点の作品といっしょに返還された後は、東京国立近代美術館に収蔵されている。**

敗戦・・・1945 = 59歳 : **敗戦後、**

三大事件・・1949 = **63歳** : ***画家の戦争協力という批判を一身に受けて、日本を脱し、アメリカ経由でパリに赴く。**

独立回復・・1951 = 65歳 :

55年体制始・1955 = 69歳 : **フランス国籍を取り、**

イスタトラマ・1958 = **72歳** :

美智子妃・・1959 = 73歳 : **夫人とともにカトリックの洗礼を受ける。レオナルド・フジタと改名し、日本芸術院会員を辞任。宗教画に取材した作品を描き、**

安保闘争・・1960 = 74歳 :

いざなぎ景気1966 = 80歳 : **ランスのノートル・ダム・ド・ラ・ベ礼拝堂の設計とステンド・グラス、フレスコ壁画の制作に没頭。毀譽褒貶のなかで情熱的に生きた画家藤田の掉尾を飾るにふさわしい仕事である。**

美濃部都知事1967 = **81歳** :

霞ヶ関ビル・1968 = 82歳 : **フランスに約20年間を過ごし、スイスのチューリヒで没した。**

講談社「藤田嗣治画集」、「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」、